

2018年度
日本語
(問題)

<H30122181>

注意事項

- 一 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 二 問題は2〜7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 四 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること（左の記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に記入すること。
- 五 受験番号の記入にあたっては、左の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に記入すること。読みづらい数字は、採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例)

5 3 0 0 1 番

↓

万	千	百	十	一
5	3	0	0	1

(数字見本)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 六 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 七 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
- 八 いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。
- 九 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は生きていくためには仕事をしなくてはならない。太古の頃は、ともかく食糧の獲得と、気候の悪いところでは、それに①耐えていくための方策、住居とか衣服の確保が必要だったろう。そして、実際はどのような過程を経たか、詳細は不明にしても、ともかく人間は集団で生活するようになった。そして、集団で生きていくための方策として、分業が成立した。A、一人の人間が自分が生きていくためのことを受けもつのではなく、各人が自分の受けもつべき仕事を分担し、全体として人間が②コウリツよく生きていくようにし、そこに人類の文明ができた。かくて、現在の日本においては実に多くの職業が存在することになった。そして、「職業に貴賤なし」ということが、現在の社会の標語となっている。職業の種類によって、人間の価値判断を行なってはならないと考える。

しかし、明治維新前の日本においては、職業と③身分とは④ソウトウに明確に関連していた。士農工商という言葉があるように、これらはもともとは職業を示すための言葉でP、それは「身分」として固定されたものと考えられた。そして、それらは上から順番に身分の差を示していた。人間は生まれながらに身分が決まっており、そして職業もそれに従って決まっていた。

今日の考えによると、これは⑤極めて不合理である。現在の日本においては、すべての国民に職業選択の自由があり、職業の種類によって人間の価値判断を行なわない。昔は何とばかなことをしていたのかと思うが、a、というものは、それなりの利点を持っているもので、単純に非難するばかりのことでもない。現在の仕事について考えるために、少し昔にかえって、その当時の仕事観について考えてみよう。

現在の観点から、昔の人は「不自由」で気の毒だったとのみ思うのは間違っている。昔の人々はそれぞれが自分の職業に誇りをもっていた。それは、その職業が深いルーツをもっていたからである。その一つはすぐにわかることだが、世襲ということである。自分が従事している職業は、父親が、祖父が、そうして曾祖父がやっていた。つまり、長い時系列の中に自分の行為がしっかりと位置づけられている。それに、あまり「進歩」ということがなく、B「伝統」が重んじられるとなると、上から下へと伝えられることがそのまま意義がQ、しっかりとした線上に自分が位置していることがわかりやすい。

次にもう一つ大切なことがある。それは、農業でR、「土」という人間存在を超える大きいものが、その職業の背後にある。このことは実にbにならない重みをその仕事に与える。士農工商の最高位にある「士」は、そのようなものとして「死」を持っていた。常に死と対峙して生きる。そこに武士としての誇りがあった。「工」の場合は、それによって作り出す「もの」がそれであった。刀鍛冶の作る刀などは、その最たるものだが、「もの」は即ち「いのち」であり、「たましい」であった。C、「死」、「土」、「もの」と並べてみると、そこにおのずから段階が感じられるようなところもある。そして、このような考えに立つと、⑥「商」の背後に見えるものが定かでない、ということもあって、それは下級と見なされた、と思われる。

近代になって、日本は欧米の影響のもとに近代国家として生きてゆこうとした。特に敗戦を契機としてアメリカの影響を強く受けるようになったので、先に述べたような職業観は急激に変化してしまった。

ともかく、自由で平等ということが日本人にとって非常に魅力あることになった。職業選択の自由が誰に対しても保障される。このようになると、親の職業を継ぐのは「古い」と感じられる。多くの子供が親の職業を世襲することを⑦キヨヒするようになった。誰でも好きな職業を選ぶことができる。こうなると職業に貴賤はないと言いつつも、そこに一般的な価値付けのようなものができてきた。まず、できる限り大学を卒業しようとする傾向が強くなり、大学卒の人が職業を選ぶときの「人気」が形成される。

その場合、これまで実に多様な職業がそれぞれのルーツをもって存在したのでS、現在においては、経済的価値という、すべてのものを一様にする力がはたらいっているのが特徴的である。つまり、その職業の内容がどんなことなのか、どんな歴史をもつかなどということとは無関係に、それによって得られる収入という尺度によって、一様に序列がついてしまう。D、その職業によっては疲労度が特に高いとか、いわゆる「汚い」という感じがあるとかによって価値が減じる場合があるが、何と言っても経済的価値の強さは認めざるを得ない。

お金さえあれば何でもできるし、何でも手に入ると言う。しかし、人間は不思議なもので、お金さえあれば「安心立命」

とはいかない。「安心」するためには、人間は何らかのルーツとつながっていないとだめである。 E アイデンティティと言ってもいいかもしれない。

日本人はこれまでの職種ごとのルーツと切り離された結果、職場という「場」をアイデンティティの支えとするようになった。自分は「電気技師」であるというよりは、「××会社」に勤めています、ということによって自分の存在を明らかにする、日本人の特徴となって現われている。自分がどこに所属するかということによって、自分のルーツとするのである。

日本以外の東アジアの国々においては、血縁を基にする「家族」が各人のアイデンティティのよりどころになっている。個人主義をベースにする欧米の近代文明を取り入れるときに、それが一つの ⑧ **ボウガイ** 要因としてはたらいっているようである。これに比して日本は、血縁をそれほど重要視しないので、近代化するときに、比較的早く行なうことができた。

日本人はこのような考えによっているので、会社が一種の擬似家族的役割を ⑨ **果す** ようになつてくる。日本人は「仕事好き」とか「働きすぎ」と言われる。そのような面も確かにあり、それについても考える必要があるが、就労時間が長いことの要因の一つとして、会社内の家族的一体感の保持ということが大いに関係していることも認めねばならない。

ところが、このような状況も最近では変化してきた。リストラの波が押し寄せてくると、擬似家族は、しよせん擬似でしかないのです。容赦なく解雇がある。それよりも、もつと ⑩ **シンコク** なことは定年退職である。退職してしまうと、会社内の人間関係が自分を感じとっていたのよりも、はるかに希薄であることを思い知らされる。部長として在任していたときは、多くの人が自分を大切にしてくれていると思っていた。しかし退職してみると、それは自分という「人間」に対してよりは、部長という「地位」に対してのものであったことがわかってくる。

昔は、働きづめに働き、段々と枯れてきて、退職してしばらくすると ⑪ **お迎え** がきて、皆に惜しまれて去る、というようなパターンができていたが、近代医学の進歩というのが、このような日本的な美的完成を ⑫ **阻む** ようになった。

河合隼雄『日本文化のゆくえ』による。

注 「対峙」： 向かい合うこと。

「リストラ」： 会社などの人員削減。

問一 傍線部①③⑤⑨⑫の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問二 空欄 A ・ B ・ C ・ D ・ E に入る語として最も適切なものを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア あるいは イ しかし ウ つまり エ むしろ オ もつとも

問三 傍線部②④⑦⑧⑩の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

問四 空欄 P ・ Q ・ R ・ S に入る語句として最も適切なものを、それぞれ次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア あるが イ あるので ウ あるのに エ あれば

問五 空欄 a ・ b にはそれぞれ、以下の意味にあたる漢字二字の語が入ります。これを参考にして、文脈に応じた最も適切な語を考え、その語を漢字で解答欄に書きなさい。

- a 教育や選挙の方法などのように、組織を運営したり社会秩序を保持したりするために設けられているしくみ。
b 対照してその違いを調べること。

問六 傍線部⑥はどのようなことを言っているのか、わかりやすく説明しなさい。

問七 傍線部⑦はどのようなことを指しているのか、その意味にあたる語を漢字二字で解答欄に書きなさい。

二次の文章は、二〇三五年の働き方について述べたものです。これを読んで後の問いに答えなさい。

技術革新は、働き方 **I**、企業や経済社会全体のあり方を大きく変革させる。自立した自由な働き方が増えることで、企業もそうした働き方を **①** **ユルヤカ** に包摂する柔軟な組織体になることが求められる。また、変化のスピードが速くなることで、企業自体がそれに対応するために機動的に **a** 時代がやってくる。物理的に空間と時間を共有することが重要だった時代は、企業は **II** ひとつの国家やコミュニティのような存在になっていた。もちろん、そうした組織を **②** **イジ** しようとする企業も存続し続けるだろうが、二〇三五年には少数派になっているに違いない。そうした企業の変化が、さらに人々の働き方をより自由で柔軟なものに変えていくと考えられる。二〇三五年の企業は、極端に言えば、ミッションや目的が明確なプロジェクトの **③** **堀** となり、多くの人は、プロジェクト期間内はその企業に所属するが、プロジェクトが終了するとともに、別の企業に所属するという形で、人が事業内容の変化に合わせて、柔軟に企業の内外を移動する形になっていく。

その結果、企業組織の内と外との垣根は曖昧になり、企業組織が人を **④** **抱え込む** 「正社員」のようなスタイルは変化を **⑤** **迫られる**。もちろん、プロジェクトによっては何十年と続く場合もあるだろうし、終わりが明確でない場合も少なくないだろう。また、一つのプロジェクト終了後もその企業の別プロジェクトに参加するなど、長期 **III** 一つの企業に所属し続ける人も存在するだろう。企業に所属する期間の長短や雇用保障の **⑥** **ウム** 等によって「正社員」や「非正規社員」と区分することは意味を持たなくなる。

このように二〇三五年には、企業の内外を自在に移動する働き方が大きく増えているに違いない。それまでに、そうした移動を容易にする仕組みが整えられることが重要になり、それぞれの人の能力や評価に関する情報がより幅広く共有されている社会になっていく必要がある。

このように企業がプロジェクト型の組織になるにつれて、働く側も、自分の希望とニーズに応じて、自分が働くプロジェクトを選択することになる。その結果、企業側は、自分のプロジェクトに最適な人を引き付けるべく努力をする必要性が生じる。また、働き方の選択が自由になることで、働く時間をすべて一つのプロジェクトに使う必要はなくなる。複数のプロジェクトに時間を割り振るということも当然出てくる。もちろん、一つの会社、一つのプロジェクトに従事する場合もあるだろうが、複数の会社の複数のプロジェクトに同時に従事するというケースも多く出てくるだろう。 **b** その結果、個人事業主と従業員との境がますます曖昧になっていく。組織に所属することの意味が今とは変わり、複数の組織に **⑦** **刈ソウ** 的に所属することも出てくる。また、プロジェクトの中には、非営利なものも、社会貢献を目指すものや自己実現を中心としたものもある。営利的な組織と、非営利的な組織の両方に所属しているケースは、今でも見受けられるが、二〇三五年にはそれが本格化し、一人の働く人が複数の営利的組織、複数の非営利的組織のプロジェクトに所属し、その所属先も時の経過とともに変化するのが当たり前の時代になっていくだろう。

働く人は仕事内容に応じて、一日のうちに働く時間を自由に選択するため、フルタイムで働いた人だけが正規の働き方という考え方が成立しなくなる。同様に、それより短い時間働く人は、フルタイムではないパートタイマーという分類も意味がないものになる。さらに兼業や副業、あるいは複業は当たり前のこととなる。多くの人が、複数の仕事をこなし、それによって収入を形成することになるだろう。複数の仕事は、 **IV** 金銭的報酬のためとは限らない、社会的貢献等を主目的にする場合もあるだろう。このように、複数の仕事をすることによって、人々はより多様な働く目的を表現することができると。また、一つの会社に頼り切る必要もなくなるため、働く側の交渉力を **c**、不当な働き方や報酬を押し付けられる可能性を減らすことができる。このような働き方になれば、当然、今とは違って、人は、一つの企業に「就社」するという意識は希薄になる。専門的な能力を身に付けて、専門的な仕事をするのが通常になるからだ。どのような専門的な能力を身に着けたかで、どのような職業に就くかが決まるという、 **d** 文字通りの意味での「就職」が実現する。ただし、技術革新のスピードが速いことを考えると、専門的な能力は、環境の変化に合わせて変化させていく必要がある。一つの職業に「就職」をしても、「転職」は柔軟に行える社会になっている必要がある。企業の多様化が進むなかで、一部の大企業はロイヤリティを有した組織運営を継続していくだろう。しかし、これまでのように企業規模が大きいこと **V** 働く人のニーズを満たすことはできず、働く人にどれだけチャンスや自己実現の場を与えるかが評価されるようになる。企業経営者も企業規模を拡大させることよりも、企業の個性を磨き魅力を高め、働く個人から選ばれる企業を **⑧** **目指す**

とが求められるだろう。

厚生労働省「働き方の未来 2035 ～一人ひとりが輝くために～」による。

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/punya/0000133454.html>

問八 傍線部①②⑥⑦の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

問九 傍線部③④⑤⑧の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問十 空欄 I 〽 V に入る語句として、最も適切なものを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。(同じものを二回以上使わないこと。)

ア にわたって イのみでは ウのみならず エ必ずしも オあたかも

問十一 空欄 a に入る語句として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 変化せざるを得ない
イ 変化しがたい
ウ 変化もままならない
エ 変化しなくてすむ

問十二 傍線部 b 「その」の内容として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 働く側の人が、一つの会社、一つのプロジェクトに従事する場合があるということ。
イ 企業側は、自分のプロジェクトに最適な人を引き付けるべく努力をする必要性が生じるということ。
ウ 働く人が複数の会社の複数のプロジェクトに同時に従事するというケースも多く出てくるということ。
エ 営利的なものや非営利的なものも含めて、組織に所属することの意味が今とは変わるということ。

問十三 空欄 c に入る語として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 広め イ 狭め ウ 低め エ 高め オ 弱め

問十四 傍線部 d で、なぜ「文字通りの意味での「就職」と述べられているのか、その理由を説明しなさい。

問十五 本文の趣旨に合うものを次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア 今後、報酬を押しつけられて働くことはありえない。社会的貢献等を「副業」として位置づけて働くことが、中心になるからである。

イ 今後、技術革新のスピードが速くても、一つの企業に就職した人が生涯にわたって安心して働き続けられるような制度が必要である。

ウ 今後、人々の働き方は、より自由で柔軟なものに変わっていくと考えられる。ミッションや目的が明確なプロジェクトのような形になる。

エ 今後、働く人は仕事内容に応じて、一日のうちに働く時間を自由に選択することが考えられる。これはパートタイムで働くということである。

問十六 次のア～オのうち、この文章の論述のしかたの説明として適切なものには○、不適切なものには×を、それぞれの解答欄に書きなさい。

- ア この文章では、二〇三五年の働き方について、現在の具体的な数値をもとに、客観的に推定している。
- イ この文章では、二〇三五年の働き方について、説得力を高めるための効果的な引用は使用されていない。
- ウ この文章では、二〇三五年の働き方について、結論を最後に述べる述べ方でまとめている。
- エ この文章では、二〇三五年の働き方について、全体に推論するような書き方となっている。
- オ この文章では、二〇三五年の働き方について、現代社会に見られる事例を根拠に、帰納的に論証している。

〔以下余白〕

二

	問九	問八		問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一			
⑧	③	⑦	①			a	P	⑧	②	D	A	⑨	①
す			やか									す	えて
	④		②			b	Q	⑩	④	E	B	⑫	③
	え											む	
	⑤		⑥				R	⑦		C			⑤
	られる												めて
							S						

(H30122181)

受験番号	万	千	百	十	一
カ氏名					
氏名					

(所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない)

2018年度

日本語
(解答用紙)

No. 1 / 2
採点欄

(この線で二つ折りにして書きなさい)

問十六	問十五	問十四	問十三	問十二	問十一	問十
ア						I
イ						II
ウ						III
エ						IV
オ						V

2018年度

日本語
(解答用紙)

No. 2 / 2
採点欄